

令和7年度第1回総合教育会議

日時： 令和8年2月12日（木） 16時～17時

出席者： 町長、教育長、山口課長、梶田主幹、大中課長、中野主幹、永山副課長、加嶋係長、
村田係長、山口
沖永委員、青木委員、下野委員、横尾委員

○村田係長

それでは皆様おそろいようですので、ただいまより、令和7年度第1回総合教育会議を始めます。本日の進行を務めます学校教育課の村田です。よろしくお願いします。それでは、会議の開催にあたりまして、会議の目的について確認をさせていただきます。この会議は町長部局と教育委員会が十分な意思疎通を図り、町の教育の課題やあるべき姿を共有する場となっております。構築の時間は時間と限られておりますが、皆様から多くのご意見をちょうだいしたいと思いますので、よろしくお願いします。では次第に戻りまして、遠田町長よりご挨拶をお願いいたします。

○遠田町長

どうもご苦労さまです。ご出席いただきましてありがとうございます。1年に1回か2回、こういった打ち合わせがありますので、貴重な機会だと思います。

現在、3月議会に向けて来年度の予算を準備し、大方骨格が固まり来年度予算の議案として上げます。学校関係でも、たくさん要望をいただいています。その中でできる範囲、特徴的なのは、子どもたちの給食費を6年続けて無償化してきたことです。来年度は小学校の給食費を国が見てくれるという流れになりそうなので、中学校だけ町が手配をするということになると思っています。その他にも、タブレットの更新時期になりました。大きなお金が要ることも含め、いろいろ過渡期を迎えておりますが、予算をつけようと思っています。

もっと大きく荻田町全体の話少々させていただきます。荻田町の財政状況は、財政力指数というのがあり、大まかに言うと収入に対する支出です。1.308ということで、1を超えて1.3倍ぐらい収入が多いという状況になっています。これは福岡県で、荻田町だけです。それぐらい収入が多い状況です。勿論、給食費も含め、いろんなことに使っています。ですから、お金も少し貯めてきました。そういうことを含め、来年度以降に老朽化した公共施設の更新工事に大きく取りかかることを計画しております。そのために準備として、公共施設の基金、基金というのは貯金なのですが、基金を50億円ぐらい貯めてきました。それらを元手にして、役場庁舎、中央公民館、それから小中学校の校舎の外壁、エアコンの取り付けなどが、教育関係ではあります。その他にも、町の事業としては小波瀬西工大前駅の整備や、ごみ焼却施設の整備などがあります。

荻田町は今いろんな課題を抱えております。日産が神奈川県の工場を閉鎖して、九州で操業していただけるということになり、今日も日産の課長もお見えになりました。荻田町にとって、円滑に日産が移行できるということは非常に重要なポイントです。行政運営の、大きなポイントだと思っています。できるだけ事業が円滑に進むように、荻田町としてどんなことができるかということを考えながら進めようと思っています。あとは、来年の8月末までに空港が3000メートルの滑走路延伸になり、供用開始が来年8月末ということになっています。それから荻田港の整備にもこれから投資があるというようなことです。

荻田町は、いろんなことで内外から注目をされており、少々財政が今非常にいいのですが、これからお金を使い借金をします。とても貯金した額では足りませんので借金をします。少し財政状況が落ち込む時期が来るかと思いますが、また新たな投資を呼び込むような政策をとることにより、長期的に見たら、財政の健全維持をしていきたいというふうに思っております。

今日は教育関係のことで、皆様お集まりいただきましたので、簡単に大まかに荻田町のお話をして、個別にまた今日はお話があらうかと思いますが、その話を聞かせていただきたいと思っています。皆さんの意見を聞かせていただいて、それを町政運営に反映していきたいと思っています。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

○村田係長

ありがとうございました。次に、教育委員会を代表いたしまして、井上教育長にご挨拶をお願いいたします。

○井上教育長

改めまして皆様こんにちは。遠田町長におかれましては、お忙しい中時間を作っていただき、本日の教育総合会議を招集していただきましたことに心より御礼を申し上げます。また、委員の皆様には、教育総合会議にご出席いただきまして誠にありがとうございました。

さて、年明けの寒波がやっと一段落いたしました。学校ではインフルエンザ流行の中、学期末に向けて1年間の総まとめを行い、来年度の教育課程編成に向けて今動き始めているところでございます。皆様におかれましては日頃より教育に対するご理解とご支援をいただいておりますことに、重ねてお礼を申し上げます。本日は町長部局と教育委員会がより一層連携しながらかんだっ子のよりよい成長を目指し、施策等を立案し実行していくことができるように情報共有し、意見の交流を進めることができればと考えております。短い時間ということもあり、山積する課題の中でも、特に、議会等でもご質問をいただいております学校の適正規模適正配置について中心に情報の共有を図り、意見交換ができればいいなと考えております。これからの新しい教育の方針が今日の会議を通して少しずつ明確になり、共有できますことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。最後までどうぞよろしくお願いいたします。

○村田係長

ありがとうございました。それでは次第に従いまして協議意見交換を行いたいと思います。まず初めに今日のテーマであります、町内学校の適正規模適正配置について。井上教育長より説明をいただき、その後、委員の皆様より意見をいただき協議していききたいと思います。それでは井上教育長よりよろしくお願いいたします。

○井上教育長

それではお手元の資料、スクリーンに映しておりますが、この資料をもとに、本日の会議の中心になります、町内学校の適正規模・適正配置についての協議を進めていく上で、共通理解が必要な部分について、参考にしていただければということ意味で、その考え方や現状について簡単にご説明したいと思っております。まず、荻田町における学校の適正規模・適正配置を考えていく目的は、児童生徒にとってよりよい教育環境を確保するため、荻田町内の学校規模の在り方を検討していきたいと考えております。検討が求められる背景といたしましては、京築の他の市町と同様に、荻田町でも社会状況の変化と教育へのニーズの高まりから、学校の適正規模・適正配置が今後の重要な課題となってくると考えられます。そこで、小中学校の適正規模・適正配置につきまして、その基本的な考え方ということで、先ほど申し上げました背景、それから基本的な考え方、対応の目安についてご説明したいと思います。

まず求められる背景についてです。令和6年度の出生数は、日本全国で72万人という、過去最低を記録しております。今後もこうした少子化の傾向は続いていきます。荻田町では全国と比べて減少の仕方は緩やかですが、少子化は避けられないところがございます。このような少子化や共働き家庭、ひとり親家庭の増加などにより、地域コミュニティの衰退化が起こっております。その反面、交通網などの発達により生活圏が広がり、移動手段も増えてきています。これらが子どもを取り巻く社会環境の変化です。その一方で、学校教育に求められるものは、ICTの発展による個別最適な学びや協働的な学びへの対応です。また、働き方改革による教職員の負担軽減や学校施設の老朽化への対応も喫緊の課題となっております。このように、子ども達を取り巻く環境の大きな変化の中で、適正規模・適正配置の検討が求められる市町が今非常に増えております。

次に、この適正規模・適正配置の基本的な考え方についてご説明します。基本的な考えとして3つの点が挙げあげられます。1つは教育環境の向上ということで、学校規模の適正化は児童生徒の教育条件を改善し、教育目標をよりよく実現するために行われることが大切だと考えております。2つは、集団での学びの重要性ということで、多様な考えに触れ、協力し、切磋琢磨

する中で、思考力、判断力、表現力、問題解決能力、社会性、規範意識を育むためには一定の学校規模が必要だと考えております。3つは地域との連携ということで、社会ぐるみの教育を行うことが求められている現在、学校は地域のコミュニティの中心であり、防災や地域の交流の場としての機能を持つため、地域の実情に応じた判断も尊重していかなければならないと考えております。

次に、適正配置の対応の目安についてです。1つの学校の中で学級数が1から5学級程度と考えています。つまり、小学校では通常が6学年あるので6学級ですが、5学級以下ですと、複式学級が1つ以上ある、ということになります。京築地域では5学級以下の学校が小学校で46校中12校、行橋市が1、苅田町が1、みやこ町が2、築上町が5、豊前市が4。それから中学校が3となっております。苅田を除く多くの学校で複式学級が行われています。いずれの学校も、全校児童生徒の数が大体7名から45名の間となっております。この規模になると、教育上の課題が極めて大きいため、学校統合などにより適正規模に近づけることの、適用を速やかに検討することが必要だと考えられています。今後は京築地区地域での統廃合がどんどん進んでいくというお話をこの頃よく聞いております。現在苅田町で該当するのが片島小学校です。国や県の複式学級の学級編成基準に基づくと、1年生を含む学年、つまり1年生と2年生が合わせて8人以下、それ以外の学年は2学年合わせて16人以下だと複式学級になります。

複式学級というのは2学年の子どもを1つのクラスに編成する学級で、1人の担任が同一教室の中で2学年分の指導を行う。渡り指導と私達はよく言っております。1年生と2年生の学年に行き来しながら教えるという指導を行っております。現在のところ3つ以上の学年を1つにする編成は認められてはおりません。今スクリーンにあげているのが複式学級編成の例です。例を見てください。1年生と2年生が7人、これは8人以下で1学級になります。複式学級を編成する場合は下の学年から組み合わせていくので、1、2年で1学級、3年生4年生を見ると13人で16人以下ですので同様に1学級。次の学年は5年生6年生で、合わせて13人なので1学級というふうになります。ところが、例②を見てみますと、1年生が4人、1年生と2年生が合わせて9人。8人以上を超えており、ここでは複式学級はつくれませんので、1年生が4人で1学級。次の学年が2年生と3年生になり、合わせて10人なので16人以下で、1学級。次の学年を見てみますと4年生が8人です。ところが4年生と5年生合わせて17人ということで、16人を超えておりますので4年生が1学級、残りの5年生と6年生合わせて16人なので1学級。こういった複式学級の編成のやり方になっております。京築の小さい学校でも1校、この学校がありますが、1年生がいません。3、4年生が3人と5人で8人なので1学級。それから5年生と6年生が12人なので1学級。たった2学級の学校がございます。全校で2学級の時は教頭先生、養護の先生、事務は配置されないとなっております。

では、苅田町ではどうなのかと言いますと、国や県の基準に該当するのが片島小学校です。国の基準で考えますと、片島小学校も複式学級が2つの学校となります。しかし、片島小学校の現状はどうかと言いますと、現在7学級の学級編成を行っております。これは平成18年3月に地域の強い要望を受けて、苅田町立小中学校少人数学級及び複式学級の編成に関する規則が定められまして、町独自の編成基準で学級編成を行うようになったからです。国の基準が1年生を含まない学級については16人以上ですが、苅田町ではこれを10人としております。そのため、国や県の基準では2年や3年生合わせて1学級のところを11人ということで2つ、単独の学級になっております。それから、4年生も6年生も合わせて13人で国の基準では1学級のところを10人以上ということで、2つの学級。つまり、1年生から6年生は単学級ということになっております。しかし、当然県費の教職員は配置されません。先生が2人足りなくなります。そこで町雇用の教職員を採用して配置しております。毎年片島小学校の区長さんや期成会の方々がこの制度の存続の請願に来られています。その時に、現在苅田で決めている10人の基準をもう少し引き下げて8人とか7人にして欲しいという要望も聞いておりますが、現時点では難しいということで回答しております。このように1学級10人以下の少人数学級です。更には小規模特認校ということで、45人、今児童生徒がいますが、そのうちの14名が校区外から来ている児童です。

先程も申し上げましたように、少人数学級ということで大きなメリットがありますと同時にデメリットもあります。メリットといたしましては、学習面における少人数の効果としては、一人一人に必要な支援が可能だから、個々の能力を発揮する機会が多い。教員の目が届きやす

い。個別の体験活動が充実している。実験が1人で何回もできるという良さがあります。反面デメリットとして、友達と切磋琢磨する機会が少ない。教員への依存傾向が強くなる。発表の声がどうしても小さくなりがちで多様な考えに触れる機会が少ないというデメリットがあります。それから人間関係作りの効果として、メリットとしては、学年を超えた繋がりが強いから、学年の縦割り活動を行っておりますので、上級生の自覚が育つ。全ての児童が主役になれるというメリットがありますが、その反面、人間関係が固定化しがちで1度関係が崩れると、その学校の中に居場所がなくなる可能性が大きくなってきます。それから男女比に偏りが生じやすく、遊びや運動に制限があるといったデメリットがございます。

地域連携の面からは、学校がコミュニティの中心になります。地域と学校が連携した教育環境が整っていると同時に、コミュニティスクールによる学校運営への寄与ができていうという良さがあります。デメリットとしては、学校廃止による地域の過疎化を懸念している人が多いということと、PTA学級委員と地域役員の兼任による保護者の負担が大きいというデメリットがあります。このようなデメリットがかなり大きいので、学校の中ではデメリットの解消に向けた取り組みとして、スクリーンに示しております3つの取り組みを行っております。学力向上に向けては、教科によって複数指導体制を整備しております。複式学級は勿論ないのですけれども、どの学級でもなるべく担任外の先生や校長先生、教頭先生、教務の先生が入った複数の指導体制を整備しております。

それから、ICTを活用して他校とのオンライン学習の試行ということで、白川小学校や与原小学校とオンライン学習の試行。まだ本格的ではありませんが、オンライン学習も実施しております。それから人間関係作りに向けては、他校との交流学习の試行ということで、同じく白川や与原に少し出向き、交流をすることも始めております。それから地域の方と連携した諸活動の工夫ということで、地域の方々がたくさん学校の中に入ってきて、取り組みを進めております。

児童確保に向けては、小規模特認校制度の広報の強化と活用をしているところでございます。このような現状から、今後の片島小学校や白川小学校の適正化について検討する時期に来ていると考えられます。議会からも検討という声が聞かれているところでございます。そこで、児童数の推移を見てみたいと思います。下のグラフを見たら一目でわかりますが、大規模校の荻田小学校と与原小学校は今後緩やかにではありますが、児童数が減少します。その他の学校は、ほぼ横ばいの状況です。片島小学校は令和9年から数は、上の表で見ると45から28と減っておりますが、これは小規模特認校の人数が未確定なので入れていないためです。現在いる14人程度が今後続くとすれば、総数はほぼ横ばいということになってきます。白川小学校も同様に、令和13年度まではほぼ横ばいで推移するということが考えられます。この表をもとに、町内学校の児童生徒数の推移から考えられることとして、スクリーンにお示ししている3つの点がございます。

荻田町の出生数がわかる今後6年間は、片島小学校と白川小学校も含め、町内学校の児童数は概ね現状維持ができる予定です。ところが、令和13年度までの片島小校区在住の児童は30人前後で推移しますが、令和13年度の片島小学校の新入生児童が今現在1人であることがわかっており、もしこの1人がずっと続くようであれば、大きく人数が毎年減っていきますので、統廃合の検討が必要になります。けれども、先程町長がおっしゃる通り、2年後の日産の追浜工場からの移転等につきましては、まだ少々先が不透明な部分もありますので、引き続き入学予定者数を注視して対応していくことが、必要だと考えております。

そこで、これまでに事務局内でも検討していることを中心に、今後の方針として、現在の選択肢として考えられるものを、スクリーンに上げております。大きく分けて3つございます。現行のまま。統廃合を進める。校区の見直しによる規模適正化。このことについて簡単にご説明していきたいと思います。

まず①の現行のままということでございます。大きく人数が減らなければ、現行のままということも考えられますが、今現在、複式学級解消のために町の予算で教員を2名配置しております。教職員不足ということで、今いる先生方が、65歳の教員ともう1人は臨時免許の教員でございます。もしその方がお辞めになった時に、次の人が応募してこられるのかという点が非常に今不安なところでございます。正規の教員新規採用教員も少ない中、本当に見つかるのかという懸念があり、複式学級になる可能性が非常に大きいということ。それから人数が減りま

すと、本当に限定的な教育活動になるという課題が大きくなると考えております。②を飛ばしまして③の校区の見直しによる適正規模化についてご説明いたします。

校区の見直しにつきましては、与原小学校の一部を片島小学校に繰り入れ、増員を図るということでございます。これは以前にもこういう案を片島小学校と与原小学校の方に少々お話ししたことがあります。今古賀団地の方を片島小学校の方に繰り入れたらどうなるのだろうかというお話でした。今、複数学級の与原小学校から単学級の学校への転校となるため少々保護者の理解が得にくい。やっぱり大きな学校で、切磋琢磨して育てたいという保護者が多いのではないかと考えております。

それから②の統廃合を進める。これにつきましては、今のところ 3 つの案を持っております。1 つは小規模校 2 校の統廃合ということで、片島小学校を白川小学校と合わせる。平成 17 年の話です。教育改革を行った時に、私は課長補佐としていました。片島小学校、白川小学校を統廃合して 1 つの新しい校舎を建てます。だから統廃合しましょうと言った時に、猛反対にありました。白川小学校は元白川村。片島小学校は元小波瀬村だから。一緒に合わせるができないという地域の人の強い反対があり、頓挫しました。今回新たに校舎を建てることは、財政上も難しい。他所の地域に統廃合を進めているところがあります。大体どれぐらい金額がかかるのかお聞きしたら、50 億はかかりますよと。今建設費がどんどん上がっているのです、できれば大きな予算を持ち出しなくて、校舎の新しい白川小学校への統廃合。そうするとすればそれが一番いいのかなと考えております。

それから次の大規模校への統廃合ということで、今度は片島小学校の子どもを与原小学校に。与原小学校はじわじわと人数が減っていきますので、その分は片島小学校の子ども達が入ってきても、校舎を新しく建てることがないということで、この案もあると考えております。1 番目の白川小学校へと統廃合する、また与原小学校へ統廃合する。その時に片島小学校の子ども達に対しては、スクールバスを運行する必要があるとございます。

それから、一番最後が新津中学校区の小中一貫校の設立。これは議員さんから、そういう考えもあるよとお聞きいたしました。私達内部で考えてみたのですが、新津中校区を全部 1 つにまとめると千二、三百人になります。県内どこを見ても、千人以上超える小中一貫校がありません。やはり小中一貫校になると校長は 1 人になります。1 人の校長で千二、三百の学校を運営していくことは非常に厳しく、また広大な敷地や高額な建設費用が必要となってきます。小中一貫ですので、体育館も 2 つ、運動場も 2 つ。その他多くの施設を設置しなくてはならないので、100 億は軽く超えるかなというふうに見ます。土地の購入もありますので、かなり大きな金額になるかと思うので、難しいだろうなというふうに考えております。

今現在、事務局内で意見が出ているのはこういうところですので、今日は、まとめとしてここに挙げております。荏田町の学校教育の未来に向けて児童生徒にとって最適な教育環境を確保するために、今ご報告した選択肢を参考にしながら、総合的に検討して地域の実情に応じた、最適な解決策を見出す必要があります。本日様々な観点からご意見をいただいて、今後の方針をというふうに考えておりますので、今日は協議をよろしく願いいたします。以上でございます。

○村田係長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえまして意見要望または提案などの意見交換の場をいたしたいと思っておりますので、委員の皆様、ご意見等がありましたら発言をお願いいたします。どなたかご意見ありますでしょうか。

○下野委員

先程説明あった荏田町では、町の予算を投じて複式学級はないということでしょうか。

○井上教育長

今はありません。

○下野委員

将来的に言うとか複式学級になる可能性もあるという話だったかと思います。また、京築の地区で複式学級がある所が荇田町ではなくてもあるかと思っています。やはり子ども達にとって何が一番大事かというと学校教育、育成していく面で1つの指標としては学力があるかと思っています。また、その複式学級のクラスの学校の生徒と、そうではないクラスの学力の違いは明らかにあるのでしょうか。結果として見えてくるようなものです。例えばよくこの教育委員会で話しています、小学校5年生や6年生の学力テストの全国平均などがあります。複式学級を経験してきた子どもと、複式学級ではない子どもの学力の違いって明らかにあるのでしょうか。

○梶田主幹

事務局の方からお答えします。今現在、荇田町の学校の学力は教育委員会で把握しております。経年を見た時に、片島小学校校や白川小学校といった小規模の学校は、やはり人数が少ないだけに、どうしてもその時のメンバーで上下はありますが、他の学校と比べた時にやはり先生方の指導が行き届いているので、学力が多分子ども達がそもそも持っている力をかなり上回って10年間上がっていった、やはり小規模であれば、先生の指導が行き渡っているなというのは感じているところです。ただ、先程おっしゃったそれが複式学級と比べたらどうなのかということになりますと、他町では複式学級のクラスがありますが、その結果を私達は、見ることができないので、数字で比べることは難しいと思っています。

ただ、複式学級であっても、他の町でも、荇田町のように複式を解消して、担任の先生を雇用するまではいかなくても、主要教科である国語、算数理科社会ぐらいまでは、その担任外の先生がなるべく一緒に、国語や算数が2学年一緒ではなくて、なるべく分けて教えるっていう体制をどの学校もとっているかと思っています。町によっては教員ではないけれど、支援の先生という形で配置しているので、複式学級と比べることはできないのですがやはり少人数がかなり行き届いているというのを感じているところです。

○下野委員

ただこのメリットとデメリットを見ると、決して複式学級が悪いっていうわけでもなさそうですし、やはり一長一短あります。メリットもかなり良いことを書いていますし、子ども達にとって何が一番いいのかっていうところはやはり冷静に考えないといけないかと思っています。それが、もう今実際に結果として何かこう見る指標があるのかなかと思っています。難しいですね。

○村田係長

他に意見がありましたらよろしくお願いします。

○青木委員

そのまま、統合されないといけなくなるっていう可能性はあるわけですね。当年或いはそれ以降に。

○井上教育長

人数が減ればそうなります。なかなか難しい問題がたくさん出てきます。

○青木委員

もし新入生の人数が増えていく可能性があるのであれば、何か一応手立てを取っているということも資料に書いてありました。例えば、児童確保に向けて小規模特認校制度の広報とか、こういうものって実際増える可能性っていうのはやはりあります。

○梶田主幹

小規模特認校につきましては、じわじわと人数は増えてはいますが一気に大きく増えるということは今のところはないようです。

○青木委員

現状維持ということですね。

○井上教育長

片島地区はあまり家を建てられない地域、市街化調整区域になっております。建てられないために子どもや、人が流入してこないといところがございます。それから、やはり高齢者が増えていくと、だんだん子どもの数が減ってくるのかなってということもあります。

○青木委員

その町の財政に余力があって、今の状況を維持できると言われるのであれば勿論それでよろしいのですが。早晩はかなり時間が、かかってくることであれば、複式学級がどんどん増えてくればそれだけやっぱり教員の負担というのは多い。教員がどんどん増える可能性があればいいのですが、それはそれでまた難しいという話です。なかなか厳しいような気がします。

○井上教育長

学校の建物も随分建築年数が過ぎているものが多く、片島小学校も校舎としては古いです。長寿命化計画を立てて、改修しています。片島小学校も改修していかなければならない時に、大きなお金をかけて改修するのか、それとも統廃合していくのか。議員さんからは費用対効果ということも言われますので、そこも考えていかなければと思っております。

○青木委員

片島小校区の方は与原小校区に入ることはあまり問題ないのでしょうか。

○井上教育長

まだはっきりと今のお子さんたちに聞いたわけではないですが、平成17年に地域の方々と、懇談会を持ってお話を聞いた時は統廃合は大反対でございました。

○横尾委員

当時の方は、与原校区について入ることは問題なかったのでしょうか。

○井上教育長

その時はまだ一定の人数がいました。与原に入るとすれば片島の灯が消えてしまう。片島の過疎化が進んでしまうので、どうしても学校を残して欲しいという意見が強かったです。

○沖永委員

はい。質問があります。特認校、片島の方に14人の子どもがいますが、大体校区としてはどこからの校区が多いですか。

○加嶋係長

与原小校区からが多いですが、結構まちまちではあります。小規模というところに魅力を感じて保護者の方が送迎してでも行かせたいという方はいらっしゃいます。

○沖永委員

私も少々20数年前に片島に教頭と校長でいましたが、その頃には複式学級などはありませんでした。やはり需要ができたということでしょうか。やはり小さい学校で子ども達にとってはまた統廃合地になるともう1つちょっと大きな、問題になるかなと思います。わかりました。この間、京築地区の教育委員会の研修会がありました。その時に、ちょうど統合というか、過疎化についてのいろんなお話がありました。やはり今からもう、先程教育長も言われましたけれど荻田の方は本当に少々緩やかというか、先程の資料のグラフにしても、少し今から準備しておけば、地域の方も幾らかご準備ができるかなと思います。他の京築地区はもう切羽詰まっていまして。もう椎田もそうですし豊前も、そういうことの話がされていました。中学校にな

れば部活動とかも、できなくなるというお話もあり、それ以外の統廃合をすると、いっぱいいろんな課題がまた出てくるのかなと思います。荻田としましては、他に先に実行しているところを、これからよく様子を見ながらしていくのが、これからの荻田町に必要というふうに思います。

統廃合等に向かっていくには、私が20年ぐらい前行った時にやはりこういうお話があって期成会、先程言われましたけど、例えば複式学級を解消して欲しいというのが毎年陳情に来ていました。区長さん達がすごく元気で頑張ってください、そういう時代にいたものですから、先程お話があったように片島に対する思いはすごく強かったです。やはり地域なくては、学校等も成り立ちません。これから、そういうふうに向かうのであれば地域の方々とも話し合いがこれからも多く必要だと思います。もう今の区長さんや保護者の考えは少々わかりませんがその頃は、そういう方がいないとまだ学校運動会1つもできなかった時代でした。そのためなるべく統廃合にしろ、あれをする、こうしようを何か練っていい学校づくりができたらというふう思います。

○村田係長

他に何か意見がありましたらよろしくお願いします。

○横尾委員

小規模校が行橋市にあります。行橋の知り合いの話を聞くとやはり、大きい学校が馴染めない子は行橋の蓑島小とかに行くと、逆に元気になったというような話は聞いたことがあると言っていました。そういう意味でやはり小規模校というのは、その特色を生かして何か上手いことできたらいいのかなと思います。やはり少ないからこそ、また小規模校で失敗すると、という不安や問題もあります。この辺はデメリットがあったりとかもあると思います。そういう意味でやっぱ一概に小さいから全部、というのはやはり勿体ないな、という話。そういう話を聞いたことがあります。

○下野委員

校区は自由に選べるのでしょうか。駄目ですね。基本はこの校区に住んでいる人はこの学校に行くという決まりがあります。先程の保護者が送迎してでも入りたいという場合は、仮の住所か何かに、子どもの住所を移しているなどそのようなことをしていますか。

○加嶋係長

小規模特認校の場合は、校区指定された校区外から受け入れ可能としております。そこだけは特別に荻田全町区域から受け入れ可能としております。他の片島小学校以外は指定された校区以外は届け出をしていただき、いろんな要件がありますが、それに当て嵌まる場合のみです。

○梶田主幹

行橋市で言ったら蓑島小学校が小規模特認校で、行橋市内の子どもはどこからでも通える学校になります。荻田町でいったら片島小になります。

○下野委員

白川小は違いますか。

○梶田主幹

違います。

○村田係長

他にご意見等がありましたらよろしくお願いします。

○遠田町長

この問題は、古くて新しい問題だと思います。ずっと前からそういったことのいろいろな議論があり、教育委員会の中で真正面から、この問題をテーマに取り上げて議論していただくというのは本当に大事なことだと思います。まず教育委員会がどうあるべきかと議論するというのが一番大事だと思います。私が思うのは、例えばこれから校舎が老朽化し大きなコストがかかって修繕費を入れるということになった時に、議会を含めて賛成をもらえるかなど、そのことを考えます。本当に費用、適切な費用コストがかかることが認められるかというような議論になった時に、やはり町を取り巻く環境とか、そういうことも議論しなければいけないと思います。小規模特認校として受け入れているという実態があって、今の形で動いていると思いますが、個人的には、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃん達は、片島は140年を超える伝統のある地域コミュニティの中心である学校がなくなったら、片島の地域コミュニティが成り立たないみたいな話をされます。それは確かにそういう面があると思います。一方で、本当にそれが最も子どもにとって望ましい環境なのかということは、やはり議論で少し、お父さんお母さん、おじいちゃん、おばあちゃん達の議論とはちょっと差があるのかなみたいなことを感じます。ですから、小規模校だからいい面も勿論あるのですが、全体でいって例えば団体競技ができないとか、友達と競争してもっと頑張ろうという社会性を身につけるだとか、そういったことがやはりできないこと、それは中学生になったらできるから大丈夫だという方もおられますけども、そういったことを含めたら子ども達にとって何が一番大切なことを考えます。

それともう1つ大事な要素は、先生が置けない状況にある。先生がもう既に足りないわけですから、先生が配置できないことになったら、複式学級を認めないとか言っても、先生もいないからできないということがもう目の前に迫ってきています。子ども達の人数よりも寧ろ先生を配置できるかということの方が、もっと喫緊の課題として迫っているような気がします。ですからこういうふうに議論をしていただいて、多分結論は、いい面と悪い面とメリットとデメリットがあって、結論出ないと思いますが。対外的にも、教育委員会ともこんなテーマで考えて、いろんなメリットとデメリットについて話しているということになるとですね、やはり町としてもお金を出して、町雇用の先生を今2人雇って、複式学級にならないようにしている。そういうのも含めて、今はまだ大丈夫だと。もっと子ども達が減り始めたら、心配ですよというのが、当面の課題でした。しかし、その前に先生が足りないようになるということを思っています。こういうことを正面から取り組んで、教育委員会の中で議論していただくというのは、本当にありがたいなというふうに話を聞きながら思いました。以上です。

○村田係長

ありがとうございます。今の町長の意見を踏まえまして、何か意見等がありましたらよろしくお願いします。

○下野委員

今町長が言われたように、多分この小一時間では結論が出ないと思います。なので、継続的な課題でしょうけどどうしても、直近で少子化の話だとか、先生がいらない問題だとか、やはり出てくるので、どこかである程度の形を作っていけないといけないのかなというふうに感じました。弊社の話をすると、日産自動車の横浜閉鎖になって、家族含めてこっちに来ていただいています。そこで増えるという要素もありますが、このまま確定した話でもない。やはり少子化と教員不足っていう、両面も睨みながら財政の話も当然あると思いますが、老朽化していく学校をどうするか、お金をかけてどうするかっていうところも総合的に判断をしながら、すぐに答えは出ないにしても論議をしていかなければいけないのかなというふうに感じました。

○遠田町長

昨年に町長選挙がありまして、いろんな方からご意見を聞く機会がありました。お会いした時に、片島小学校は、長くは持たないだろう。そういう教育関係を片島はもう持てないだろう。片島をなくさないで、片島に片島小学校に代わるコミュニティの拠点を作ったらどうかと私は

と思います。例えばと言っていたのは、オートキャンプ場みたいな町外からも来てもらえるような設備。運動場もありますので、ということだと思います。教室を使ってキャンプをするのかはわかりませんが。そういったことを含めて、何か荻田町の地域が活性化するようなことが手だてとしてとできれば、割と地域の方に受け入れてもらえる環境にもなるということと言われたのが、頭に少々残り説明させていただきました。いろんなことを考えながら、この問題についてはいろいろ検討していく必要があるかと思います。今日の会議で整理をし、教育長から説明していただき、皆さんからのご意見をお聞きする。改めて避けて通れない課題がもう目の前に来ているということ、私達に共通の認識があるということを確認できた今日だったかなと思います。

○沖永委員

どうもありがとうございます。20年前からと言いましたが、多分住民の方とか、実際のお子さんの親の考えもやはり変わってきていると思います。いろんな情報や、今からのお話の方がいろんなことを柔和に考えてくれるかなっていう町長さんのお話を聞き思いました。子どものことを言えば、本当に子どもにとって何が大切なのか。私の頃は運動会も地域の方みんなで行っていましたが、今後はやはり少々それも難しくなってくるのではないのでしょうか。1個ずついろんなことが少しずつ変わってきているので、少し早めから取り組んでいけば、みんなが学校づくりができるのではないかなという感じがします。

○町長

もう1つ付け加えさせてもらいますと、荻田町は都市計画の線引きというのをやっています。二崎から片島、あの辺りに線が引かれて、北側は市街化区域。その反対側は市街化調整区域、あとは都市計画区域以外というのは白川方面になります。そういうふうにして線が引かれています。市街化区域というのは市街化を進める区域、市街化調整区域というのは市街化を抑制する区域だというように線引きされています。福岡県が線引き権限を持っています。荻田町にずっと家が建ってきて、田んぼの部分が二崎、片島、猪熊、それから片島、白川とずっと調整区域です。外から家を建てようとしても、それは建てられない。農業の関係者、或いは家族などの関係でないと建てられないという法的な規制があります。外から来た人が自由に家を建てることを可能にするには、法的な規制を取り払う必要がある。福岡県と話をする、荻田町の市街化の中にまだ田んぼがありますね。日豊線と県道との間にずっと田んぼがあるのを指して言われているのだと思います。そのため、なかなか線引きの規制を変えてもっと自由に家が建てられるようにすることが難しい。この問題が解決すれば、片島の何年か後には子どもが1人になるという課題も、なくなるかなとは思いますが。しかしそれはなかなかハードルが高いということになっているのが現状です。社会的な法的な縛りが、今のままずっと永遠に続くかということでもないことがあるかもしれません。まだ今の段階で福岡県の話の聞くと、まだまだハードルが随分高いというような状況です。

○村田係長

それでは、他に意見等ありますでしょうか。よろしいですか。皆様ありがとうございました。それぞれの立場から貴重な意見をいただくことができ、本当にありがとうございます。それでは、井上教育長よろしいでしょうか。

○井上教育長

本日は、学校の適正規模・適正配置の方向性について初めの1歩として、熱心なご協議ありがとうございました。町長部局と協議を行う中で、荻田町の教育の課題や新しい方向性が町全体として、共有できたのではなかろうか、というふうに考えております。現在は社会が大きく変革していく過渡期であり、先の読めない日々でございますが、今日の協議の内容を生かして、ご意見等を参考にしながら、また今後もその都度ご相談しながら継続して検討して参りたいと考えております。遅くとも5年以内は、早ければ3年以内には、方向性としては明らかなものを出していかなければならないだろうなというふうに考えております。どうぞそれにつきまして、今後の協議のご理解とご協力をよろしくお願いいたしまして、本日おまとめの言葉とした

いと思います。本日はどうもありがとうございました。

○村田係長

ありがとうございました。最後に遠田町長何かありましたらよろしくお願いします。

○町長

先程も言いましたが、本当にこのテーマを取り上げると非常にいろんな難題がたくさんあります。取り上げることがまず大きく前に 1 歩踏み出した形になっているのだと思います。教育部局の皆さんの勇気といいますか、そういったことについて正面から取り組んで、本当に敬意を表したいと思います。役場でいろんな公共施設に手を入れるとなりますと、計画を立て設計をして、それからとなりますのでお金の準備もいりますが時間もかかります。ですから、今後どうするかを決めるとすると、やはり教育長が言われたように、何年か程ということを決めて準備にかからないといけません。もう来年から子どもがいないからやってくれとか言われても、とてもできないという状況です。そういったことも含め、少し前倒しに今日のように今の段階から議論をしていただいたということに感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

○村田係長

はい。ありがとうございました。その他何か意見等はございますか。なければ、以上をもちまして第 1 回の総合教育会議を終了させていただきます。本日は貴重な意見を皆様からいただき、本当にありがとうございました。それでは皆様お疲れ様でした。